

上半身裸に短パン姿 腰にピストルを下げていた

歴史を歩く

戦後70年

米海軍が臨した館山海軍航空隊水上班滑走台跡(中央の海にせり出したスロープ)。現在は一部が造船所として使われている。右上は海上自衛隊館山航空基地(8月8日、千葉県館山市で、本社へから)秋月正樹撮影



東京湾の玄関口、千葉県館山市の館山湾は「鏡ヶ浦」と呼ばれ、穏やかな海が広がっている。70年前、ここで米軍の対日占領政策の歩が踏み出された。

米占領軍上陸地 (千葉県館山市)

館山戦後連絡委員会 進駐が45年9月1日に館山に上陸する予定であることを知った外務省が8月31日、日本側窓口として館山市内の旅館に設置した。委員長は林安・外務省参事官。駐屯地となる海軍航空隊周辺の住民の立ち退きを進めたほか、館山駅の使用を禁じて館山を隔離した。進駐軍の上陸は台風の影響で9月3日にずれ込んだ。同様の組織は横浜にも置かれた。

行き違い? 直接軍政の謎

の横浜の進駐作戦が始まっていた。館山の西側、上陸地点に立つてみた。コンクリート斜面が海中に落ち込む。飛行機が出入

りた滑走台跡は昔のまま残っていた。進駐軍の上陸に先立つ8月30日、米海兵隊先遣隊が館山や富津、横須賀に上陸し、要塞を破

壊するなど事前作戦を展開していた。同じ日、館山航空隊(現、海上自衛隊館山航空基地)近くに今も残る元館山市教育長の高橋

赤山地下壕跡など見学可

館山市は首都防衛の重要拠点で、1930年に館山海軍航空隊基地ができ、砲術学校や洲崎航空隊、赤山地下壕要塞、砲台などが設置された。大戦末期は本土決戦に備え、市内外は7万人の将兵であふれた。それだけに戦争遺跡は多い。このうち赤山地下壕跡は1階だけで長さ1.6kmの巨大要塞で、一級品の戦跡として市指定史跡となっている。海軍航空隊の機能を維持するための基地司令部、発電所、病院など終戦まで工事が続き、一部使用されていた。米軍が上陸後すぐに地下壕に入ったとされ、壁に「usa」と書き殴られた跡が残る。



内部の壁から出てきた赤山地下壕跡。壁に「usa」と書き殴られた跡が残る。

戦後放置されていた戦跡が多く、同市ではNPO法人などが戦跡の調査、保存、観光資源として活用を始め、負の遺産から文化遺産への見直しが市民の間で広がっている。こうした戦跡を活用したまちづくりや「直接軍政」について、9月5~7日に館山市で開かれる「第19回戦争遺跡保存全国シンポジウム」(戦争遺跡保存全国ネットワーク主催)の特別分科会「米占領軍の館山上陸と直接軍政/証言者のつどい」(6日)で議論される。

米海兵隊側と館山海軍航空隊の初接合。中央付近に立って写った人物がロフフォード少佐とされる。(海上自衛隊館山航空基地提供)



館山海軍航空隊水上班滑走台上陸した米進駐軍本隊(米テキサス軍事博物館から入手した要沢さん提供)

館山海軍航空隊水上班滑走台跡の現在の姿。背景の山の稜線(りょうせん)は左の写真と変わらない

ガイド

館山駅からバス利用

海上自衛隊館山航空基地に隣接する米軍上陸地の滑走台跡は無断で入れないが、周辺から見える。JR館山駅東口から「館山航空隊」行きバスで12分の終点で下車。赤山地下壕跡へは、同じバスで同駅から10分の「みやぎ」で下車し徒歩約3分。駐車場もある。館山市が管理しており、入場料一般200円。

NPO法人安房文化遺産フォーラム(0470・22・8271)は予約制(有料)で戦跡めぐりツアーを実施しており、滑走台跡にも案内してもらえる。

博去さん(仮)は自宅から、十数人の米兵が館山湾から上陸するのを目撃した。「正午前、上半身の短パン姿で、腰にピストルを下げた米兵が上陸した」と話す。この米兵は機雷などの障害物を除去する水中掃隊班とみられる。

翌31日、ロフフォード少佐は先遣隊が館山航空隊を武装解除。9月3日、進駐軍のカニンガム提督が、館山戦後連絡委員会委員の代表者に指令文を、米軍二ヨル館山湾地区の占領を指示した。軍政参謀課(Military Government Staff Section)を設置し、裁判所管理、物価管制などの権限を持つほか、学校閉鎖や外出制限を実施するなどを記されていた。「千歳興中」によると、終戦連絡委員「米軍は直接軍政を指向しているのではないかと考え、間接統治のポツダム宣言や米政府方針と違うことを政府に急報したい」といす。

当時、館山病院副院長の川名正義医師(1903~83年)が地元医師会館山市内の橋子を営んでいる。「街に人影なく病院も休診状態」。市民は家の中で息を潜めるばかりだったが、川名

9月6日、米政府が出した間接統治の再指示で、軍政は終了したとされる。では軍政三報告撤回後、毎日4日間続いたのか。戦史に詳しいNPO法人安房文化遺産フォーラム代表の要沢伸雄さん(83)は「カニンガムは、連年の雨や館山の戦争犠牲者への不安から、軍政を続けたかった。だが、館山市民は意外に協力的だった。これなら大丈夫と思ったのでは」とみる。

戦後日本の再出発の舞台の一つ、千葉県で行われた当初の占領政策は、こうして、幻の軍政となった(千葉県支局 笹川雲)

沖繩以外で唯一の直接軍政が、なぜ館山だったのか。連合軍最高司令部(マッカーサー)が準備した「軍政三柱」の撤回が命令されたのが9月3日午前10時。カニンガムの指令文が渡されたのは同日午前11時。指令文が渡されたのは同日午前11時。指令文が渡されたのは同日午前11時。

名医師は医療面の協力で米軍側の信頼を得た。終戦連絡委員とカニンガムから市民代表「指名され、英会話教室を開くなど、米軍と市民の良好な関係を築く上で大きな役割を果たした。